

ねぶた制作工程

毎年、ねぶたの山車はゼロから作られ、この工程はしばしば、前年の祭りが終わった瞬間から始まります。実行委員会（企業、学校、労働組合、または市役所）はねぶた師（ねぶた職人）と連携して、ねぶたの山車のデザインに取り組めます。デザインは、歴史上の物語や民話を、全て明るい色で、大きなまゆ毛の怒った表情をした独特のねぶたのスタイルで描きます。ねぶた師はまず絵を描き出し、色のデザインを決めます。職人と実行員会がデザインで合意すると、ねぶた師は山車の組み立てに取り掛かります。

ねぶた職人とそのアシスタントは、デザインをガイドラインとして利用しながら、木材を使用してゼロから骨組みを作ります。頭や手足を含め、大きな人物像のパーツを作り、この作業をラッセランドに移動させる準備が整うまで続けます。ラッセランドとは、5月中旬以降にねぶたの山車が組み立てられる大きな小屋が集まった場所です。ここで職人は人物像を組み立て、角材を使ってこれを下支えし、柔軟性のあるワイヤーを使って希望の形を作り、予め準備しておいた頭やその他のパーツを付け加えます。夜、山車をライトアップするため、白熱電球が内側の骨組みの中に加えられます。その脇で、人物像の外側の部分が組み立てられます。薄い和紙が慎重に切り出され、ワイヤーに貼り付けて山車を覆います。紙が人物像に貼り付けられたら、職人が太い書道用（習字用）の筆と墨を使って輪郭を描きます。色を付ける工程を始める前に、色が混ざってしまうのを防ぐために、境界線に蠟が使われます。これにより、ライトアップした時にねぶたの山車がより明るく見えるようになります。彩色には染料や水彩絵の具が使われ、刷毛やスプレーガンで仕上げられます。

最終的に、出来上がった人物像が車輪のある装飾が施された台車の上に載せられます。このステップを完了させるには約 50 人の人手が必要となり、1 年をかけてねぶたの山車を作る工程のクライマックスとなります。